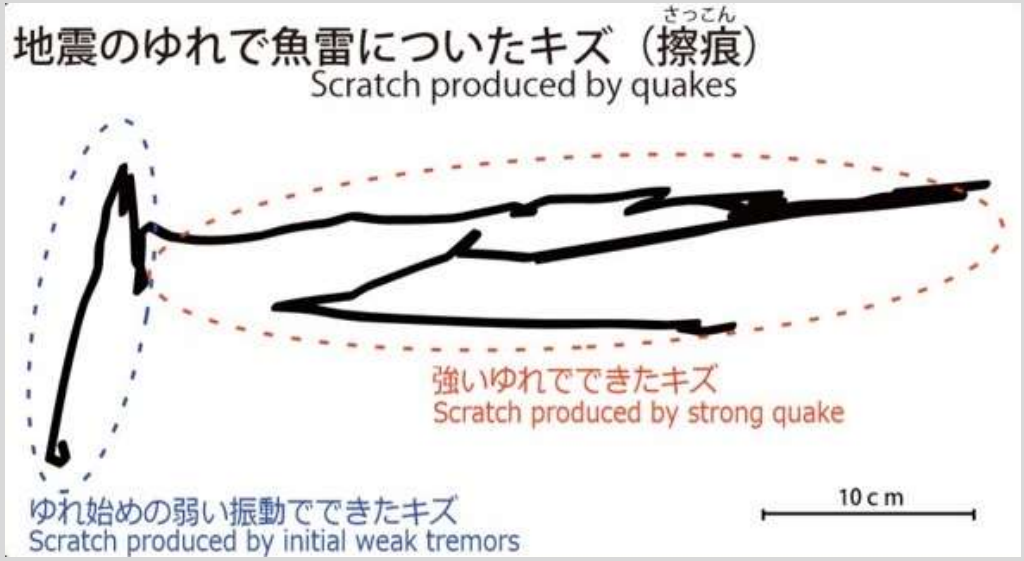
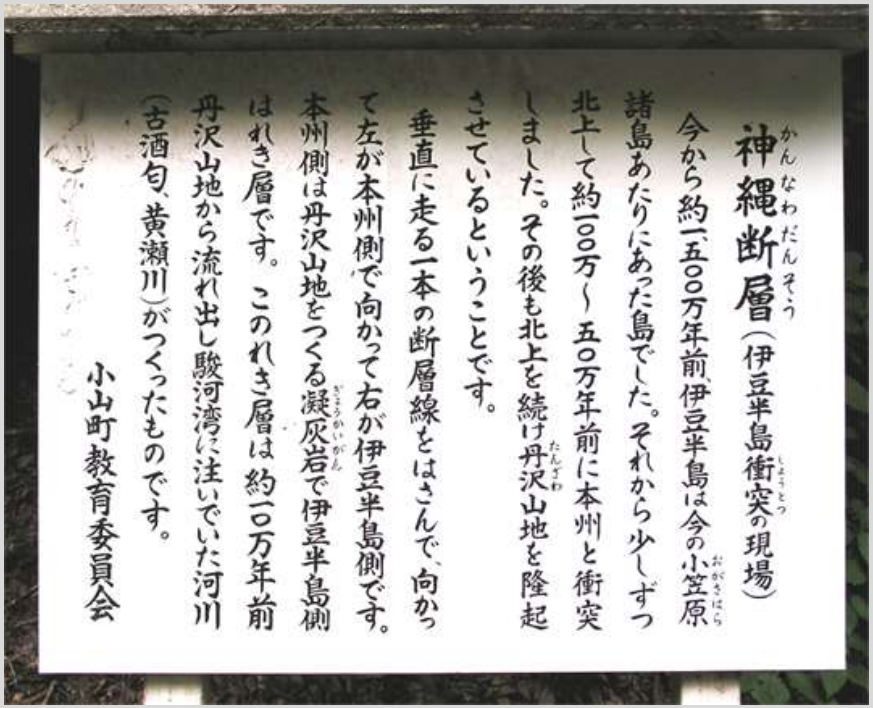
地震動の擦痕：魚雷に記録された地震のゆれ



1930 年 11 月 26 日の北伊豆地震（マグニチュード 7.3）は、丹那断層をはじめとする活断層が震源となり、現在地付近でも建物の全壊率 25% をこえる強いゆれに襲われました。この強いゆれで旧江間小学校校庭に展示されていた魚雷がすべり、台座に引っかかれたキズ（擦痕）が残りました。このキズからは、複雑なゆれの様子を読み取ることができます。

設置・管理者：伊豆の国市 観光商工課 TEL:055-948-1480
http://www.city.izunokuni.shizuoka.jp/
監修：伊豆半島ジオパーク推進協議会
http://izugeopark.org/

神縄断層

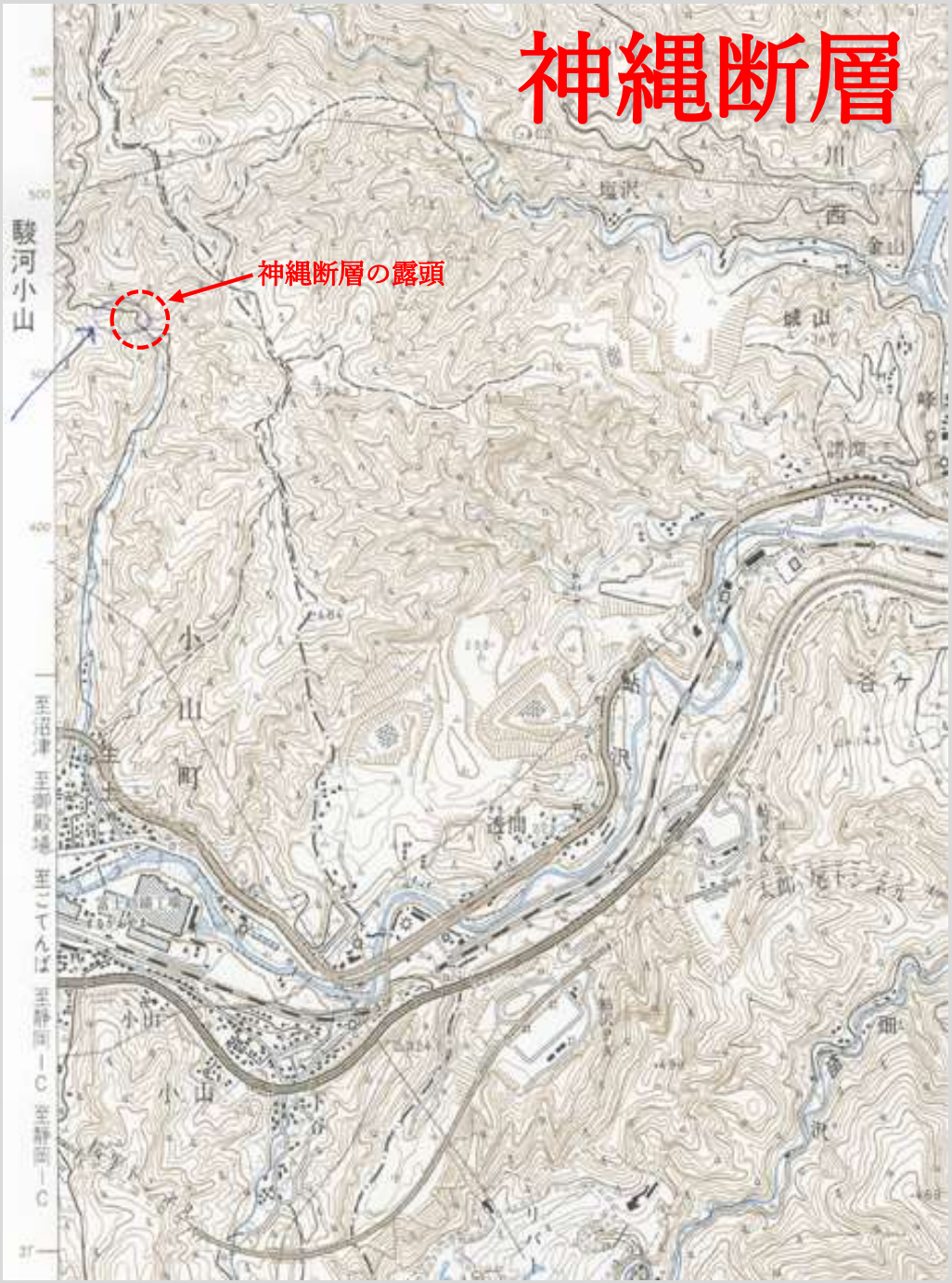


神縄断層（伊豆半島衝突の現場）

今から約一五〇〇万年前、伊豆半島は今の小笠原諸島あたりにあった島でした。それから少しずつ北上して約一〇〇万～五〇万年前に本州と衝突しました。その後も北上を続け丹沢山地を隆起させているということです。

垂直に走る一本の断層線とはさんで、向かって左が本州側で向かって右が伊豆半島側です。本州側は丹沢山地をつくる凝灰岩で伊豆半島側はれき層です。このれき層は約一〇万年前丹沢山地から流れ出し駿河湾に注いでいた河川（古酒匂、黄瀬川）がつくったものです。

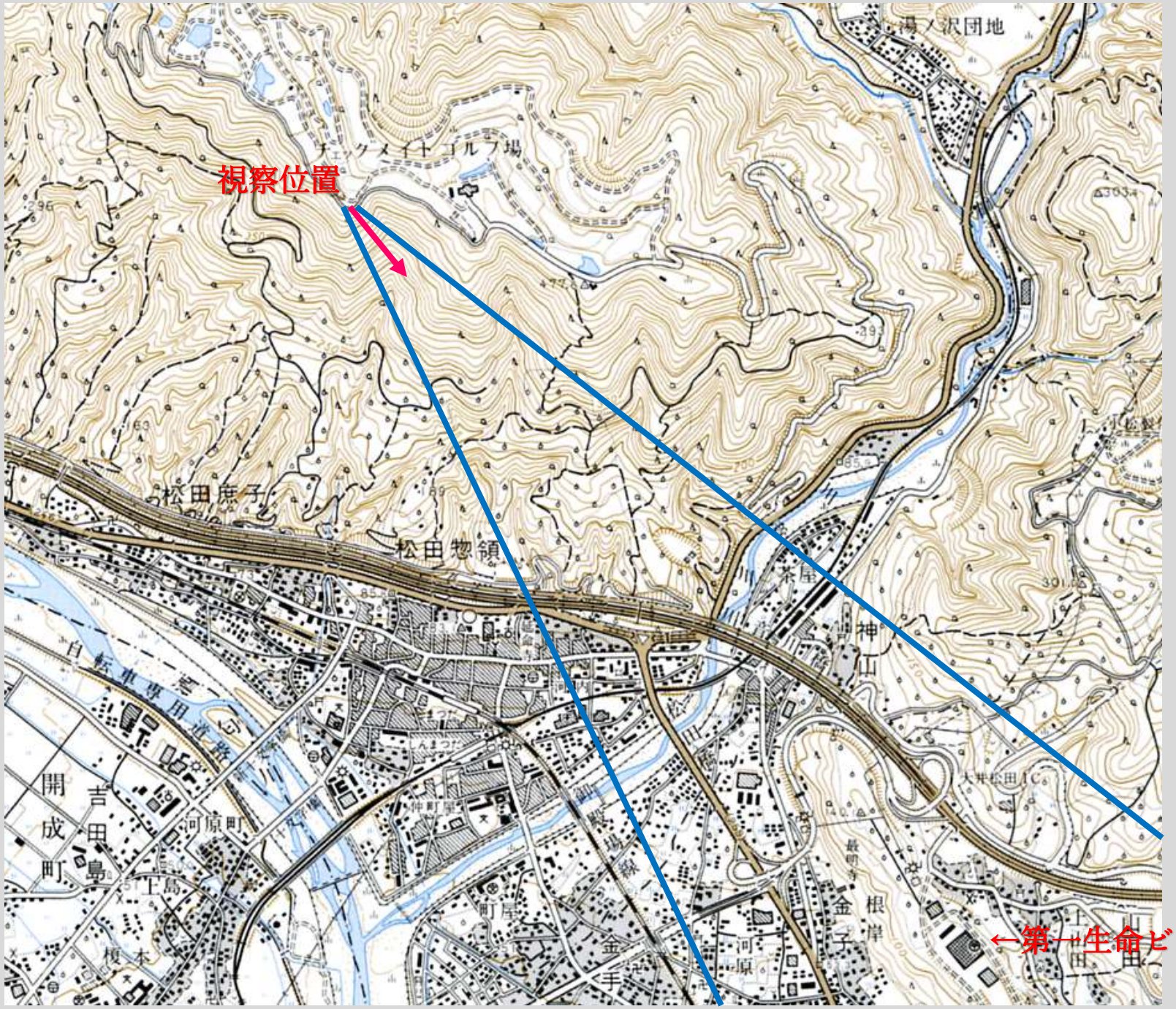
小山町教育委員会



国府津-松田断層

チェックメイトゴルフ場から見た国府津-松田断層

この写真は2004年に撮影したものを使用している.


視察位置
チェックメイトゴルフ場
湯ノ沢団地
松田庶子
松田惣領
茶屋
神山
自転車専用道路
開成町
吉田島
河原町
王島
榎本
仲町屋
町屋
金手
金子
根岸
河原
大井松田IC
←第一生命ビル

鐵道省熱海建設事務所編纂

丹那トンネルの話

東京　工業雜誌社

以下に『断層と伊豆地震』の章を転載させて頂く

二一、斷層と伊豆地震

伊豆地震

昭和五年十一月二十六日午前四時、伊豆地方は劇しい地震に襲はれて、斷層や湧水で苦しめられ、世間に幾多の話題を提供して居た丹那トンネルに又一つ噂の種を增しました。

此年の三月頃、伊東熱海方面は連日の地震に惱まされました。氣象臺の話では震源地は伊東の沖合だと云ふ事で、ひどい時には一分おき位に搖れました。それで、やがて大地震になる前兆だといふので大變恐れましたが、一ケ月餘りもこんな樣子が續いた後、何時ともなく靜に成りました。所が其年十一月の始めになると又ぶり返へして毎日々々の地震です。此等の地震は震源地に近かつたせいか、トンネル内でも山鳴が聞え上下動を感じましたが、皆度々の事であり馴れつこになつて、其の中又靜まるだらうと思つて居る中、二十六日の拂曉何時になく大きな振動が起り、戸障子は外れる、家屋も大變な搖れ方でした。幸ひ官舍では別に倒壞も死傷者もありませんでしたが、三島口近くの大場、蛍山部落等は家が大半潰され、壓死者も多數出ました。

三島口のトンネル内では、本線の切擴工事をして居た人は大部分地震の二十分前位に出てしまつて、坑内に殘つて居たのは水拔坑でボーリングをして居た四人、百三十呎竪坑の掘鑿ケ所に七人、土平の碾出し四人と蓄電車の運轉手一人だけでした。地震と同時に停電して坑内は眞暗になりました。併しトンネルの奥の方には別に異狀も無か